

次世代へ快適な環境を
SANIX

SANIX
株式会社サニックス

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2丁目1番23号
TEL 092-436-8870

 一般財団法人 サニックススポーツ振興財団
〒811-4153 福岡県宗像市吉留46-1
TEL 0940-33-2299

 **GLOBAL ARENA**
株式会社グローバルアリーナ
〒811-4153 福岡県宗像市吉留46-1
TEL 0940-33-8400



SANIX
**WORLD RUGBY YOUTH
TOURNAMENT**

**20th
Anniversary**



**サニックス
ワールドラグビーユース 交流大会**

20周年大会記念誌

Commemorative Book



2000年に産声をあげた「サニックスワールドラグビーユース交流大会」は、おかげさまで、今年、20回目を迎えました。

これからも当大会を通じて、次世代を担うこどもたちの夢を育むとともに、交流の輪が世界中に広がっていくことを願い、これまでの歩みをまとめました。

大会の歴史、そして未来の可能性に思いを馳せていただければ幸いです。



サニックス 20th Anniversary ワールドラグビーユース交流大会 20周年大会記念誌

Contents

20年の軌跡	04
ごあいさつ	06
20回大会ダイジェスト	08
大会に寄せて	12
歴代成績	22
歴代参加チーム	27
スコットランド バグパイプバンド	32
国代表となった選手一覧	34
海外からの招聘レフリー	38
あとがきにかえて	40
株式会社サニックス事業紹介	42



サニックスワールドラグビーユース交流大会
20年の軌跡



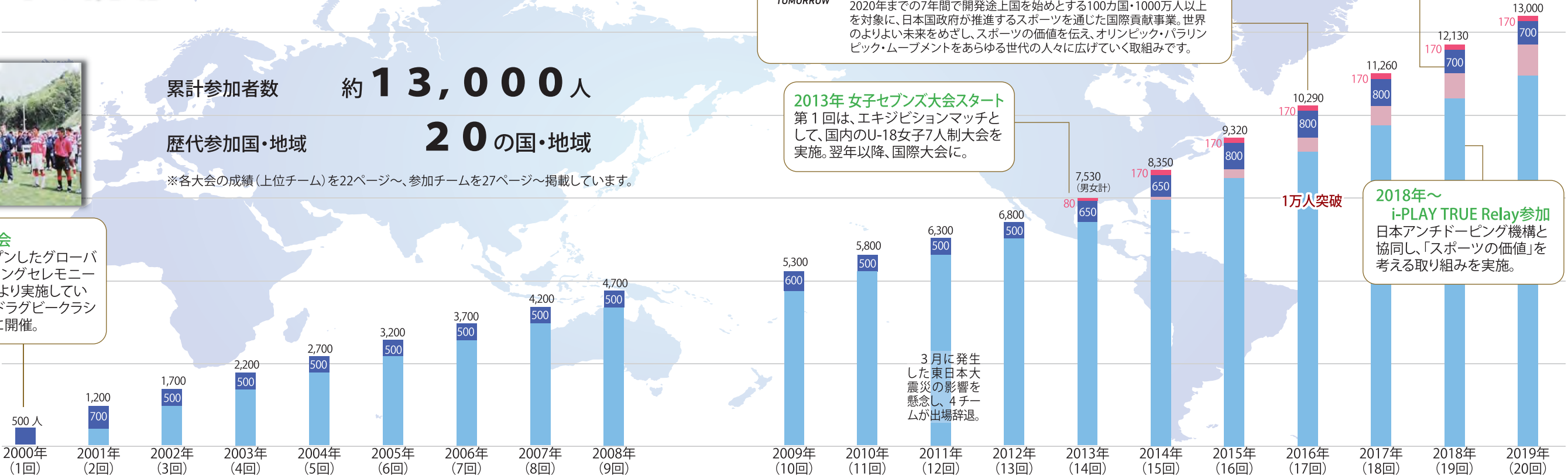
累計参加者数 約 13,000人

歴代参加国・地域 20の国・地域

※各大会の成績(上位チーム)を22ページ～、参加チームを27ページ～掲載しています。

2000年 第1回大会
同年4月1日にオープンしたグローバルアリーナのオープニングセレモニーの一環として、1997年より実施していた「サニックスワールドラグビークラシック福岡大会」とともに開催。

※グローバルアリーナ
株式会社サニックス創業者である故 宗政伸一が、株式公開時の創業者利益によってつくった総合スポーツ文化施設。世界規模のスポーツ大会の開催から、学校や塾の合宿、企業研修までも、多方面に多様な場を提供しています。



各大会の参加国・地域

オーストラリア Australia																			
カナダ Canada																			
中華人民共和国 China																			
イングランド England																			
フィジー Fiji																			
フランス France																			
香港 Hong Kong																			
アイルランド Ireland																			
イタリア Italy																			
日本 Japan																			
大韓民国 Korea																			
ニュージーランド New Zealand																			
ロシア Russia																			
サモア Samoa																			
スコットランド※ Scotland																			
南アフリカ South Africa																			
台湾 Taiwan																			
トンガ Tonga																			
ウルグアイ Uruguay																			
ウェールズ Wales																			

※スコットランドのB付きの国旗マーク は、バグパイプバンドの参加を表わしています。



株式会社サニックス
代表取締役社長
一般財団法人サニックススポーツ振興財団
代表理事

宗 政 寛

サニックスワールドラグビーユース交流大会は、今春、記念すべき20回大会を開催することができました。これもひとえに、関係者の皆様、そしてこの大会を楽しんでいただいているすべての皆様のお陰と、感謝申し上げます。

思い起こせば20年前、株式会社サニックス前社長である宗政伸一が、「スポーツ・文化を通じて、世界中のこどもたちが集う場を」との思いでグローバルアリーナをつくり、そのオープンと時期を同じくして第1回大会を開催しました。この間、世界中から13,000人がこの大会に参加いただきました。いまや、当大会に出場した選手が、国内外の一流リーグで活躍する姿も見られるようになったことは、大会の大きな財産であり、誇りです。

また、国内の出場チーム選出に当たっては、花園ラグビー場での全国大会に出場できなかったチームによる予選会も実施していますが、そこでサニックスワールドラグビーユース交流大会への出場を決めた選手たちが大喜びする姿を見て、参加を夢見る大会に成長したのだと、感慨深い思いです。

この大会では、参加選手は、グローバルアリーナで生活をともにします。世界のラグビーに触れることはもちろんですが、競技を離れてコミュニケーションを図り、お互いの文化を知り、理解を深める大会です。日本の選手の礼儀正しさに感銘を受けた海外選手が、日本選手の整列や挨拶、おじぎなどの行動を真似するようになり、あるチームが「We are the world」を合唱すれば、次々に他のチームの選手が加わり大合唱になる様子を目の当たりにしたりすると、「世界平和」にもつながる大会であると心から感じます。当大会は、お互いを認め合う世界の仲間に出会える場です。第1回大会開催当時、この様子を想像できた人は少なかったかもしれませんが、宗政伸一が思い描いたことは、まさにこういうことだったのだと思います。

ユース世代の選手のみなさんに、将来への夢と希望、世界を見る広い視野を、少しでも提供できているとすれば、これ以上の喜びはありません。これからも、ラグビーを通じた交流の輪を広げていきたい、そして、より多くの方に当大会で繰り広げられる熱戦を観ていただきたいと思っています。未永く、当大会を継続していけるよう、努めてまいります。関係各位の皆様には、変わらぬご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



一般財団法人サニックススポーツ振興財団
前事務局長

井上 登喜男

開催の経緯は、1997年、1998年、2000年と3回行われた、各国の元代表選手による「サニックスワールドラグビークラシック福岡大会」に端を発します。2000年4月のグローバルアリーナオープンに際し、当時の株式会社サニックス 宗政伸一代表取締役社長が、「グローバルアリーナのオープンにふさわしい大会がしたい」、「将来のある高校生の国際大会をしてラグビー界の発展につなげたい」という発想から、「サニックスワールドラグビークラシック福岡大会」と「サニックスワールドラグビーユース交流大会」をあわせて実施することになりました。「クラシック大会」は3回で終了となりましたが、興行的なスポット大会であったため問題はありませんでした。

ラグビー大会を開くにあたっては、知識不足かつ時間も限られていました。また、ラグビー協会との取組姿勢の違いもあり、第1回大会は国際試合ではあったものの、大会ではなく交流試合（練習試合）という感覚でのスタートでした。招待チームの選出については、国内は、当時東福岡高等学校ラグビー部監督であった谷崎氏の協力を得て決定しました。海外チームについては、サニックスラグビー部所属の外国人選手や「クラシック大会」で知り合った方々の協力、紹介で招待しました。

運営面では、大会役員は数人で、とても大会と言えるものではありませんでした。ドクターも弊財団の評議員の新原氏だけをお願いできた状態でした。第2回大会以降は徐々にラグビー協会とのコミュニケーションも深まり、ドクターについても新原氏の提案で、ラグビーに携わるドクターに協力を頂き、現在のようにマッチドクターを置けるようになっていきました。そして、大会は日本ラグビー協会の主催となりました。

チームの招待条件については、開始当時は、旅費・宿泊費100%招待でしたが、順次引き下げ、参加チームにもご協力していただくようになっていきました。また、海外チーム招請に重要な役割を果たしていただく海外のラグビー協会の関係者も招待するようになり、協力体制を取っていきました。その後、当時九州ラグビー協会理事長であった花田氏から、当時高体連ラグビー専門部部長であった前田氏への働きかけを頂き、全国高等学校体育連盟の後援を得ることもできました。

本大会が徐々に認められ、日本ラグビー協会より、2006年に弊財団が感謝状を、2013年には宗政伸一前社長が功労賞を頂きました。海外では2017年、Rhino(ライノ)主催のグラスルーツラグビーアワードで受賞最終ノミネートされました。

20年を振り返ると、大会立ち上げが難しかったことが思い出されます。本大会の目的として、競技力の向上と発展はもちろんですが、ラグビーを通しての青少年の健全育成、国際文化交流も掲げております。年々回を重ねるごとに参加者にも本大会の目的を理解いただき、プレーする人にとっても、見る人にとっても、関わる人にとっても、非常に良い大会になったと思います。この大会が今後も未永く続いていくことを祈念しております。

開会式

Photo/MasafumiONO (*マークの写真を除く)



(公財) 日本ラグビーフットボール協会 森重隆副会長 (当時)

(株)サニックス 宗政寛社長

福岡県 小川洋知事

開会式がある大会がありませんので、身が引き締まります。
(女子国内チーム監督談)

オープニングゲーム



試合前のセレモニーでは、両国国歌を吹奏します。エクセター カレッジ (イングランド) 対大阪桐蔭高等学校。

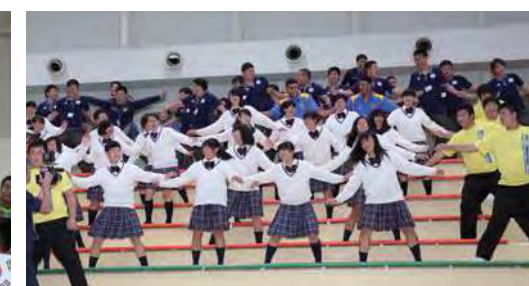
ウェルカムパーティー



あるチームの出し物「We are the world」の合唱に、次々と他のチーム選手が加わり、大合唱に。まさに、世界は一つ。

交流パーティーは今回のハイライトでした。参加者全員が楽しんでいただけたと思います。各チームのスケールの大きさを感じ、盛り上がりました。みんなの前でパフォーマンスを披露したのもとても楽しく、私にとっても、チームのみんなにとっても忘れられない体験となりました。

(男子海外チームキャプテン談)



言葉は通じなくても、音楽やパフォーマンスを通して仲良くなれました。(男子国内チームキャプテン談)

スポーツ・フォー・トゥモロー認定事業

本大会は、「スポーツ・フォー・トゥモロー」の認定事業として開催しています。2019 年は、日本アンチ・ドーピング機構が行う「i-PLAY TRUE Relay」に参加。東京 2020 大会に向けた活動を通じて、スポーツの価値・力を考え、自身の考え方や生き方につながる視野を広げることを目的としています。



ラグビーから学んだことは？スポーツの真実を考え、書く、TRUTH メッセージ。



一人ひとりの「真実」を象徴するフィルターポーズで記念撮影。

※スポーツ・フォー・トゥモローについては、5 ページ参照。

男子大会

Photo/MasafumiONO (*マークの写真を除く)



どのチームもレベルが高かった。そんなチームと試合ができたことは良かったし、素晴らしい体験になりました。
(男子海外チームキャプテン談)

海外チームとの試合で一番感じたことは、海外チームの体の大きさです。国内では、なかなか経験できない相手で、良い経験ができました。
(男子国内チームキャプテン談)



表彰式後のニュージーランドチームのハカ。

エキシビジョンマッチ

出場機会の少ない選手を選抜した混成チーム同士のエキシビジョンマッチ。「より多くの選手に世界大会の経験を」。この大会だからこそ実現できる貴重な試合です。

エキシビジョンゲームは見ていてとても興奮しました。チームメイトがいろいろな国の選手と一緒にプレイしているのを観戦できて、素晴らしい経験でした。
(男子海外チームキャプテン談)



女子セブンズ大会



海外チームと試合をし、いい加減な緩いタックルでは体格差があるので通用しないと感じました。
(女子国内チームキャプテン談)

海外の選手が、開会式前にとっても明るく挨拶して来てくれて、一緒に遊んだりして、仲を深めることができました。
(女子国内チームキャプテン談)



試合外でのコミュニケーション

試合会場と宿泊施設が、グローバルアリーナという同施設内にあり、生活をともにすることで、コミュニケーションが図れるのも、当大会の特長。お互いの文化を理解し合います。

試合以外でも、他国の選手と交流する機会がたくさんありました。例えば、夜はフロントや休憩スペースに集まり親交を深めました。ユニフォームの交換もできて本当に楽しかったです。
(男子海外チームキャプテン談)

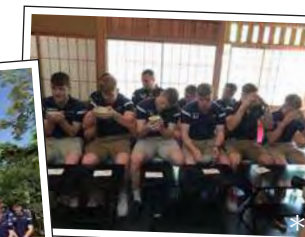


また、試合がない日に、海外チームメンバーは、日本文化の学びの場としての観光や、地元学生との交流も行っています。

小倉城



茶道体験



福岡県宗像市の学生との交流



コーチ交流会

世界中から集まった、指導者の交流も図っています。各国の情報を共有し、学び合います。



サニックスワールドラグビーユース交流大会 20 周年を記念して



公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

元名誉会長

森 喜朗 様

20 年もの長きにわたり、世界の高校生ラグーを招き、宗政伸一氏が自ら作られたグローバルアリーナで交流大会を続けてこられましたことに対して、またこの大会の発足から続いてご尽力されてこられました株式会社サニックスならびに関係者の皆さまに、心から感謝を申し上げます。

日本ラグビーフットボール協会の会長の任にありました 2006 年から 2015 年までの間に、幾度となく現地に足を運び大会を拝見することができました。国内で競い合う日本の高校生にとって、最初に世界のレベルに触れる大会です。他の国々の同世代の技や力を知り、競い合うまたとない機会があります。それ以外にも、大会を通じて、ラグビーを介して、海外の友人を得る機会を与えていただきました。ラグビーのグローバル化を日本から発信できる大変貴重な大会と言っても過言ではありません。

私は、本大会を創設された株式会社サニックスの故宗政伸一社長の「国や言葉の壁を超えて、若者たちが交流する姿を創出したい」という崇高な想いを最初に耳にしたときに、大変心を揺さぶられました。ラグビーの広がり発展を促す原点であるお考えでした。その功績に報いるべく、2013 年に日本ラグビーフットボール協会を代表して、私自身の手で功労賞をお渡しすることができ誠に光栄でした。

跡を継がれた宗政寛社長におかれましては、先代社長のご意志を大切にされて大会を継続いただいております。ラグビーワールドカップ 2019 日本大会が開催され多くの方々が海外よりお招きします。こちらを契機に、さらに、ラグビーを通じた若者の交流が増々盛んになることを期待しております。

大会より



2008 年（第 7 回大会）。



2014 年（第 13 回大会）。



2015 年（第 14 回大会）。

サニックスワールドラグビーユース交流大会 20 周年を記念して



公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

名誉会長

岡村 正 様

サニックスワールドラグビーユース交流大会は記念すべき 20 回目を迎えることができました。

これも偏に、20 年の長きに渡り多大なるご協力をいただいております株式会社サニックス、一般財団法人サニックススポーツ振興財団、株式会社グローバルアリーナの皆様、また大会関係者の皆様のご理解・ご努力の賜物と考えております。ここに、本大会に関わられている皆様に心よりお礼申し上げます。

毎年、国内外より多くの国々から若きラグビープレーヤーが来日し、一堂に会してその技を競うことは極めて有意義なことであり、日本ラグビーが世界に誇れる注目すべき大会だと感じております。

加えて、本大会はラグビーの普及、強化のみならず、国際交流、国際親善を目的としており、参加された選手の皆様は、ラグビーのコアバリュー（品位・情熱・結束・規律・尊重）に基づき、国境を越えた貴重で素晴らしい出会いの機会を得ると共に、生涯忘れることのない友人や思い出を作ることが出来るのも一つの目的だと思います。

最後に、本大会に参加している選手の中から、将来各国の代表として世界の強豪国を相手に果敢に挑む選手が出てくることはもとより、日本ラグビー界の次代を担う選手が多く輩出され世界の舞台に羽ばたくことを願ひまして、私の挨拶とさせていただきます。

表彰式より



2016 年から 2019 年まで、大会会長を務めていただいた岡村名誉会長（当時会長）。この間、表彰式では、プレゼンターとして、数多くの選手たちを称え、エールを送られました。



森会長には、大会主旨をご理解いただき、第 1 回大会より、ご協力いただきました。



公益財団法人日本ラグビーフットボール協会

会 長

森 重隆 様

今年、20 回の開催を重ねるに至りました「サニックスワールドラグビーユース交流大会」。継続は力なり!といいますが、サニックスのスタッフの皆様方の陰なる力はもちろん、その力を生み出す源泉でありますこの大会の生みの親である故宗政伸一様（株式会社サニックス創業者）に改めて感謝の念を捧げますとともに、故宗政伸一様から、宗政寛現社長にバトンが渡されラグビーにかけ熱い意志が、大会を観て今も脈々と受け継がれているのを感じるにつけ、ラグビー関係者としてこれほどありがたいことはありません。このたび大会が 20 年の節目に至りました慶事に対しまして、日本ラグビーフットボール協会を代表し、心よりお祝い申し上げます。

さて、いよいよ本年はラグビーワールドカップがアジアで初めて日本各地で開催されますが、サニックスワールドラグビーユース交流大会で、共に戦った、また共に談笑し合った選手たちに、その後、各国で開催されるワールドカップ・オリンピックのピッチ上で再度出会った、戦った、という話を近年耳にいたします。日本の競技レベルの向上が、その指導技術やラグビーを取り巻く環境の向上等と相まって今日に至っている事実はもちろんのことですが、もっと根のところで、世界のトップレベルの選手も、あの日、あのとき、グローバルアリーナで同じ時間を過ごしたあの仲間、この仲間、といった親近感もこの大会を経て成長した日本の選手たちに大きく作用しているように思えます。そういう意味では、「ラグビー競技による友好交流を目的とした世界的レベルの高校生スポーツ大会の実現」という大会目的が、今日ワールドカップ日本開催を間近に控えた、今の日本のラグビーに多大に寄与していることを感ぜずにはいられません。

ラグビーのいいところは「仲間との絆」です。独りでは到底越えられないと思われる難所をも、志を同じくする「仲間との絆」があれば、どんなに堅牢な壁をも乗り越えることができます。そしてその難所のひとつひとつを乗り越えていく自信が、たくましい人物（個）となり、いつか社会人になった時に、社会（チーム）から頼られる人物（個）となります。

一方で、ラグビーをはじめ、スポーツというのは、元来「楽しいもの」だと思います。もちろん、楽しさだけを追求すればいいということではありませんが、やはり根底には「楽しさ」がなくしてはならないものだと思います。

本大会が 20 年を通じて、この「仲間との絆」、そして「楽しさ」を世界の子どもたちに伝えてきたことに改めて思いを馳せたとき、そのはじまりと積み重ねてきた歴史に、深い感動と尊崇の念を抱かずにはおれません。

最後に、本大会がこれからも未来の子どもたちへと末永く継続されていくことを祈念いたしまして、この度のお祝いの言葉とさせていただきます。



異なる文化との出会いと体験が生涯の宝に。 *Intercultural Experiences to be treasured for Lifetime*

ニュージーランドスクールラグビー協会
会 長

ジム ロガネン 様

President
New Zealand Schools Rugby Union
Jim Lonergan

まずは、日本での素晴らしい10日間に感謝します。本当に感動に溢れた体験でした。大会会場で、また我々のために企画してくださった食事会などでのあなた方の優れたもてなしに、心から感謝します。本当に忘れられない思い出になりました。

サニックスワールドラグビーユース交流大会がいかによろしいかは、以前から聞いていましたが、実際に伺ってみると想像以上の体験でした。

グローバルアリーナは施設が非常に整っており、建物やスタジアム、フィールド、体育館、風呂場、宿泊設備など、すべてにおいて一流でした。緑あふれる環境にロッジや店が点在しているのも、一流の雰囲気づくりに一役買っていました。

大会の企画・運営も申し分なく、空港で迎えていただいた瞬間から、いつもどなたかがそばにいてくださって、どんな質問にも答え、サポートしてくださると感じました。

試合自体も非常にレベルが高く、日本、海外、それぞれのチームが質の高いパフォーマンスを見せてくれました。この大会は異なるレベル、異なる国のチーム同士が対戦できる場であり、また、大会後半では同レベルのチーム同士が戦う場でもありました。

最初に行われた懇親会では、各国のチーム関係者と親しく交流できました。またサニックスのスタッフの応対も見事で、彼らは我々が帰国する日までずっと変わらぬもてなしの心で接してくれました。

本大会の開会式は、世界中のどのユーススポーツ大会の開会式よりも卓越しており、ジョージワトソン校のバグパイプバンドが、よりいっそう華を添えていました。また、ウェルカムパーティーでの各国チームによるパフォーマンスはとても楽しく、多くの選手による“We are the World”の合唱は感動そのものでした。

サニックスワールドラグビーユース交流大会はニュージーランドスクールラグビー協会が唯一認める、高校生のための国際ラグビー大会です。協会が唯一支援する国際大会でもあります。我が協会は、必ず前年度の国内チャンピオンを大会に出場させています。男子、女子ともに、国内大会で優勝したことを称えて、サニックス大会への出場を認めているのです。

ホーウィック・カレッジ女子セブンスチームとセントピーターズ・カレッジ男子チームは、フィールド上で、それぞれのベストを尽くしました。しかし、試合以上に選手の心に生涯に渡って残るのは、大会で出会った数々の友人と、異なる文化との出会いと体験だと思います。この素晴らしい大会は証明してくれました。ラグビーは人を育てるスポーツだということを。

Firstly my thanks for an outstanding week and a half in Japan. It was truly an amazing experience. Thank you both for your outstanding hospitality, at the venue and at the various dinners and functions you organised for all of us. It is something I will never forget.

While I had heard many great stories about the SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT, the stories could not do justice to what is an experience of a life time.

The Global Arena complex is an amazing complex; excellent facilities, stadium, fields, gymnasium, bathhouse and accommodation, which are all first class. The village atmosphere with the shops and the green add to the many other excellent features.

The organisation was also outstanding, from being met at the airport on arrival I always felt someone was there to answer any questions and provide assistance for anything I required. The games were of an excellent standard with great performances by both the Japanese and the International sides. The tournament gave all teams an opportunity of playing against a variety of different countries of varying ability. In the second half of the tournament teams played against teams of similar strength.

The initial welcoming function was a great way of meeting the officials and management from the other countries and experiencing the outstanding hospitality from the SANIX staff which continued until we left.

The opening ceremony was better than any other Youth Sports Opening ceremony across the globe. Having the George Watson's College Pipe Band perform added to the excellent pageantry. The welcome party saw a wonderful mix of different performances, highlighted by the hundreds of players spontaneously coming together to sing we are the world.

New Zealand Schools' Rugby Union see the SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT as the only true international schools rugby tournament. It is the only international tournament that it will endorse. NZ Schools' Rugby Union always send our previous year's national champions to this event. To represent NZ at SANIX is the prize for winning our National Schools 1st XV competition for our boy's team and is also the prize for the girl's team that wins our National Girls 7's competition.

Both Howick College Girls Sevens team and St Peters Boys 1st XV gave their all on the field and thoroughly enjoyed the games. However it is the friends they made and the different cultures they shared and experienced that will remain with them for their lifetime. Through this wonderful SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT it has been truly proven, rugby does make better people.



N Z 学校ラグビー界において存在感ある大会。 *Aspirational Goal for School Rugby Teams in New Zealand*

ニュージーランドスクールラグビー協会
理事長

ギャリー クロニカン 様

Chairman
New Zealand Schools Rugby Union
Garry Chronican

サニックスワールドラグビーユース交流大会が20周年を迎え、主催者のひとつであるサニックススポーツ振興財団へ祝辞を贈ります。

我々ニュージーランドスクールラグビー協会は本大会を大変重要な競技会と位置づけており、男子チーム、女子セブンスチームともにご招待いただけることに感謝しております。

我が国では男女ともに全国大会に優勝しなければサニックス大会への出場資格を得られません。そのため本大会に憧れを抱く選手が数多くいます。

グローバルアリーナで行われる試合のレベルは年々高くなっておりますが、試合以上に選手が楽しみにしているのは、自分たちとは異なる文化を有する日本での様々な体験です。今まで参加してきたどのチームも日本人の寛大な心に感銘を受けております。

また、世界中の各地域から来たチームと交流し、それぞれの文化を共有できることも大会の素晴らしい特徴です。

ニュージーランドスクールラグビー協会はサニックスワールドラグビーユース交流大会を高く評価し、次の20年でのさらなる飛躍を楽しみにしております。

ニュージーランドスクールラグビー関係者の会議で、この大会がどういう大会かとの質問を投げかけてみました。以下その回答をあげます。

- ・サニックス大会はニュージーランド国内において男子、女子ともにどのチームも参加を熱望する大会となっている。
- ・どのチームもサニックス大会に参加したいがために、国内大会の優勝を目指している。
- ・サニックス大会はニュージーランドスクールラグビー界での年間行事のひとつとなった。
- ・大会に参加するチームは、国の代表として参加している気持ちになる。
- ・選手、コーチ陣ともに日本文化について学び、体験することをとても楽しんでいる。
- ・選手、コーチ陣ともに日本の文化とおもいやりの心に尊敬の念を抱いている。
- ・選手、コーチ陣ともに世界中の様々な国から集まる人々と交流することを楽しんでいる。
- ・選手、コーチ陣ともに日本人の寛容さを目の当たりにして謙虚な気持ちになる。

我々はサニックス大会をあらゆる方法でサポートし続ける所存です。

本当にありがとう。

Congratulations to the SANIX Sports Foundation on the 20th anniversary of the SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT. This tournament has become a key fixture in our rugby calendar. We have always deeply appreciated the invitations for boys 1st XVs and girls 7s team to attend. It has become an aspirational goal for our teams to win the respective national New Zealand championships in order that we select them as the team to represent New Zealand at your wonderful tournament.

The standard of competition at the Global Arena is excellent year after year. However, it is the cultural experience in Japan that teams most enjoy and embrace. Year after year teams continue to be humbled by the generosity of Japanese people. It is an added bonus that teams from so many overseas countries attend, each bringing a willingness to share their culture. New Zealand Schools Rugby has the highest regard for your tournament and look forward to the next 20 years of success. We had a NZ Schools Board meeting where we talked about the meaning and influence of your tournament in our country. Here are some responses.

- The SANIX Tournament has become an aspirational goal for both boys and girls teams in NZ.
- Teams want to win our national championships because they want to attend the SANIX Tournament.
- The SANIX Tournament has become a key fixture in our NZ Schools Rugby calendar.
- Teams that attend your tournament feel like they are representing New Zealand.
- Players and coaches deeply appreciate learning about and experiencing the Japanese culture.
- All players and coaches deeply respect Japanese culture and generosity.
- All players and coaches enjoy meeting people from many cultures around the world.
- All players and coaches are humbled by the generosity of Japanese people.

We will continue to support the Sanix Tournament in every way possible.
Thank you again.



ラグビーで世界が一つに。

Rugby Connects the World

南アフリカラグビー協会
大会・遠征担当役員
ユスフ ジャクソン 様

Competitions and Tours Specialist
South Africa Rugby Football Union
Yusuf Jackson

サニックスワールドラグビーユース交流大会は、みなさんが毎年とても楽しみにしている、世界規模の大会です。大会主催者のご尽力により、世界中の U18 強豪校が対戦する場であると同時に、ラグビー以上の経験を積むことができる、素晴らしい環境が築かれてきました。

今年の大会では我が南アフリカ代表校は、ニュージーランド、オーストラリア、イングランド、ロシアからの代表校、そして日本の 2 校と対戦しました。このように国際色豊かなトーナメントは、ここ以外見たことも聞いたこともありません。南アフリカ代表は違った個性を持つ 6 校と対戦し、それぞれの試合で自分たちの技術力や試合運びを試す機会に恵まれました。様々な対戦相手がいることでコーチたちも刺激され、奮起し、また選手たちにとっても素晴らしい経験となります。

サニックスワールドラグビーユース交流大会はラグビー界の絆を強く感じるイベントでもあります。様々な国の代表がひとつになるのは美しく、素晴らしいことです。私自身も各国の代表者や、日本の大会関係者と自国のラグビーの発展について、あるいは本大会のレベルの底上げについてなど、多くを語り合いました。

大会期間中に地元メディアにインタビューされましたが、彼らの様子から、日本の皆さんが南アフリカのラグビーについてもっと知りたい、聞きたいと思っていることがうかがえました。日本のメディアに我が国のラグビーを知っていただき、たいへんうれしく思います。私がお伝えしたかった南アフリカと日本のラグビーのつながりについて、日本のみなさんが楽しく読んでくださったなら幸いです。今後も我が国のラグビーについて、日本の関係者の皆様にもっとお伝えしようと思っています。また、地元の代表者の方々と会議のなかで、将来我が代表校に地域を訪問してもらいたいとお声をいただきました。ぜひ検討したいと思っています。

来日するたびに日本の文化の素晴らしさを堪能しています。そしてもっと多くの人に同じ体験を、との思いから、私はサニックスワールドラグビーユース交流大会を常に各方面でアピールしています。各団体からのご支援のもと、私はこの名誉ある大会に参加する強豪校を選抜しています。その結果、今年も皆さんに素晴らしいラグビーをお見せすることができたと自負しています。私はこの大会を引き続き各方面にお伝えし、来年の大会にも国内最強のチームを送り込む所存です。

サニックスワールドラグビーユース交流大会は最高です！
来年も招待していただくのを心待ちにしています。

The SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT is definitely in my opinion one of the most eagerly anticipated rugby tournaments on the world stage annually. The organizers of this wonderful tournament has created a great platform and opportunity where the some of the world's top/ best U18 teams competes against each other during an event which offers so much more than the rugby.

From a rugby playing perspective, our South African representative school that participated in matches against a New Zealand, Australian, England, Russian and two Japanese schools. Nowhere in the word currently is there a tournament where a school could receive and gain such wonderful international exposure. Our team has the opportunity to test their skill and game plans during six unique and different matches. That resulted in our school's coaching team being stimulated and further developed, but also the players having the chance of playing against different players in six matches.

From a tournament perspective, the SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT is wonderful for me, as it is in my opinion an event where the rugby world comes together. It is wonderful and beautiful to see the unity between the different international representatives. I had numerous discussions with various representatives from the other countries as well as Japanese stakeholders about how we could further enhance the state of rugby in our own countries but also further enhance the levels of rugby at the tournament.

The media interest from local Japanese media who interviewed me during the tournament this year also suggests that Japan media and followers loves learning and hearing about the way South Africans do rugby. It was a pleasure to share this information with Japanese media and I hope the Japanese readers enjoyed what I had to say about the linkages between South African and Japan Rugby. I will most certainly again share how we do rugby in South African with the Japanese stakeholders during future deliberations. I have also had meetings with representatives from the local area who want our visiting schools teams to visit their regions in the future. This we will definitely explore.

The Japanese culture is a wonderful culture, and I thoroughly enjoy every bit of it! I would love more people to experience it and therefore in South Africa, I constantly promote the SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT. I am managed with the assistance of our structures to nominate and select our best team in South African to participate in this prestigious tournament and the result of this I believe was wonderful for everyone to witness great rugby. I will continue to promote this tournament and will again strongly advocate that our strongest South African team attends next year's tournament. It is a wonderful tournament, and I look forward, to once again be involved and be invited to attend the SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT2020 in Japan.



20年の歴史に敬意を表して。

In Honor of its 20 years Anniversary

元南アフリカ代表
ディヴァン サーフォンティン 様

Former National Player of South Africa
Divan Serfontein

サニックスワールドラグビーユース交流大会 2019に、再びご招待いただき、ありがとうございました。例年通り、大会はとても効率よく運営されており、来場したすべての方が楽しめていました。

私は大会について批評する立場にはありませんが、20年もの間この大会に参加したことで、目にしたり体験したりことを、故宗政社長とも話したことがあります。

まず、ウェルカムパーティーについてですが、あの場で皆が目にした、そして耳にした熱狂、友情そして仲間意識はラグビーの将来を如実に物語っていたと思います。

参加者全員が体育館のステージでひとつになって歌ったことは本当にすばしかったです！あのような大きなイベントをまとめるのは気が重くなるような作業だったとは思いますが、すべてが時間通り進みました。スタッフの皆さんは、想像通りのすばらしい働きぶりでした。

この大会は強豪校が集うものだと思います。ゆえに招待国からは、その国のトップチームのみが参加すべきです。これはラグビーそのもののレベルを高め、それを維持するために必要です。また、今現在高いレベルにある日本の高校ラグビーの質を、さらに高めるためにも重要なことです。

我が国は常に国内トップ 5 チームのうちの 1 校を来日させるように気を配っています。それはこの大会に招待されたことの意味と、大会の歴史に敬意を払うためです。

将来日本の強豪校を南アフリカに呼びたいと思っています。多くの人が彼らのプレイを見たいはずで。ポールルースのコーチが、日本のチームからたくさんのことを学んだ、と言っていましたし、この件については、南アフリカラグビー協会からも、ご支援いただけると聞いています。

みんなが楽しめる、素晴らしいイベントをありがとう。

Again thank you for having us at the SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT 2019. As always it was run professionally and enjoyed by all.

Far be it for me to criticize anything, but being part of this Tournament for 20 years, I have seen and experienced a few things, which I have also discussed with the late Mr. Shinichi Munemasa.

First of all I believe that the future of rugby is displayed prominently by the enthusiasm, friendship and camaraderie seen and heard by all at the welcoming dinner where all the participants joined and sang on stage in the Gymnasium. It is fantastic! Organising such a huge event must be daunting, but yet again everything ran like clockwork. Well done!

I believe this Tournament is the elite schools rugby tournament and therefore only the top teams from invited countries should participate – not only to raise and keep the standard of rugby high, but also to raise Japanese school rugby, which is very good at present. We always try to bring 1 of our top 5 teams to participate, because one needs to respect the invitation and history of this Tournament.

Hopefully we can manage to get the top Japanese school team to come to South Africa. People would love to see them play. The Paul Roos coach told me they learned a lot from the Japanese teams. I also discussed this with Yusuf and he says SARU can assist.

Thank you for another fantastic event enjoyed by all.



2015年大会時

参加選手・コーチインタビュー動画 その①

宗像サニックスブルースの選手が、20回大会出場選手やコーチにインタビュー。大会の印象や他チーム選手との交流の様子、ラグビーへの思い等、ぜひ、生の声で当大会を感じてください。

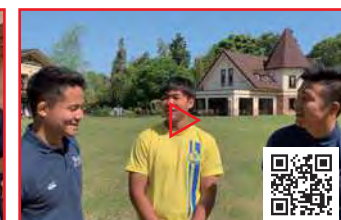
<https://sanix.jp/company/wry20.php>



流通経済大学付属柏高等学校(千葉)



大阪桐蔭高等学校(大阪)



京都成章高等学校(京都)



この大会を広くアピールしていく思い。

Commitment to Wider Promote the Event

イングランドスクールラグビー協会
名誉幹事 / 財務部長
マーク ロウ 様

Honorary Secretary & Treasurer
The England Rugby Football Schools Union
Mark Lowe

今年のサニックスワールドラグビーユース交流大会でのおもてなしに感謝いたします。

過去の大会同様、日本のチームの高いレベルに感銘を受けました。エクセターカレッジは大敗の影響から、大会後半で自信を回復するのに苦労したと思います。ポールルースジムナジウムは大会当初から状態よく見受けられたので、勝者になるべくしてなったというべきでしょう。

今後もこの大会をイングランドのみならず、広域にアピールしていきます。

Thank you for the very generous hospitality provided to myself at this year's SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT.

I was again impressed with the skill levels demonstrated by the home teams, I think that Exeter College suffered from such a large defeat and struggled to regain their confidence in the second half of the tournament. The team from Paul Roos Gymnasium looked good from the start and were worthy winners.

I will continue to do all that I can to promote the SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT not only here in England, but in the larger arena.



一生の思い出をつくるフィールド内外での体験。

Once-in-a-lifetime Occasions, On and Off the Field

オーストラリアスクールラグビー協会
元理事
バーナード カーベリー 様

Former-administrator
Australian Rugby Football Schools Union
Bernard Carberry

私は、国内の様々な学校のラグビーチームをイングランド、アイルランド、フランス、そしてニュージーランドに連れていきました。中でもサニックスワールドラグビーユース交流大会は特筆すべきものです。なぜなら参加者すべてがスポーツ交流のみならず異文化交流をも体験できる、素晴らしいイベントだからです。

私はこの大会に役員として 17年の長きにわたり、参加させていただいています。この間、たくさんの日本人と友情を育み、大会会場のグローバルアリーナは、私にとって第二の故郷となりました。

オーストラリアのチームは、自分の学校を代表するだけでなく、国の代表として参加します。そして大会側も「国の代表」としての待遇で彼らを歓迎してくれます。

彼らはフィールド内外で、様々な国の選手と交流を図り、貴重な体験を得ています。見たもの、聞いたこと、感じたことすべてが一生忘れられない思い出となります。特に日本の選手たちの品位ある行動には、いつも感銘を受けています。

故宗政社長は素晴らしい思いつきから本大会を 2000年に始められましたが、それがラグビーの発展にとってかけがえのないものとなりました。サニックスワールドラグビーユース交流大会は今後も末永く続くことでしょう。今までも、そしてこれからも、ますます発展していくに違いありません。

I have taken Australian Schools teams to the UK, Ireland and France as well as New Zealand.

The SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT is an extraordinary experience. It is a wonderful cultural and sporting experience for everyone who has attended.

I have been privileged to attend as an official for seventeen of these tournaments. I have made many friends in Japan and I consider Global Arena as my "second home".

All our players who have been to SANIX during Golden Week for this world acclaimed tournament have gone as representatives of their country as well as their school. That is how they are treated when attending. They have had the opportunity to mix with many players from many countries both on and off the field.

It is an experience that they never forget. In particular the dignity of the Japanese players is a never forgotten experience by our Australian players.

The late Mr. Shinichi Munemasa has made a monumental contribution to the development of the game when through his inspiration he started this tournament in 2000.

It will continue for many more years. There have been amazing innovations each year to make it better each year.

たくさんの経験が子どもたちの心を豊かに。

Life-fulfilling Experiences for All Our Lads



イングランド エクセターカレッジ
(Exeter Colleg)

コーチングスタッフの皆様

エクセターカレッジとイングランドスクールラグビー協会を代表して、素晴らしい大会を企画・開催してくださったすべてのみなさまへ多大なるお礼を申し上げます。

エクセターカレッジの選手、スタッフともに大会中のみなさまのおもてなしにたいへん感動しました。この期間に経験した、たくさんの素晴らしい出来事がチームのみんなを心豊かにしたと断言できます。

長崎を訪れ、福岡で博多どんたくのパレードに参加できたことをたいへん光栄に思います。これらの経験を通して、選手たちは日本の文化をしっかりと目に焼き付けると同時に、大会に参加したことで、日本国内のみならず世界中の高校強豪チームと対戦できました。

帰国後、多くの保護者から謝辞を受け取りました。彼らの息子たちがどれほど今回の来日を楽しんだか、そして様々な経験を通してどれだけ成長したかを、口々に教えてくれました。

日本国中がラグビーワールドカップを楽しむことを心から願っています。大会は間違いなく大きな成功を収めるでしょう。

チームを代表して、感謝申し上げます。またグローバルアリーナにてみなさんにお会いできるチャンスがあることを心から祈っています。

I wished to write on behalf of Exeter College and the England Schools and Colleges RFU organisations to say a huge thank you all of those who organised once again an absolutely fantastic tournament.

The entire playing squad and staff from Exeter College thoroughly enjoyed the wonderful hospitality throughout the tournament and undoubtedly all of our lads have returned enriched by the unbelievable experiences they had throughout this tournament.

They feel privileged to have visited Nagasaki and taken part in the Hakata Dontaku festival parade in Fukuoka. These experiences enabled the boys to really look at the cultural elements of Japan during their visit while challenging themselves against the top U18 teams from Japan and around the world.

Since returning the parents have been contacting us expressing their gratitude and sharing with us how much their son's enjoyed every minute of the tour and how much they have taken on board from the many experiences offered to them.

We hope that Japan thoroughly enjoy the World Cup and we have no doubt it is going to be a huge success.

On behalf of us all, thank you and we very much look forward to having a further opportunity in the future to join you at the Global Arena.

参加選手・コーチインタビュー動画 その②

その①は17ページ。まとめて下記サイトに掲載しています。

<https://sanix.jp/company/wry20.php>



エクセター カレッジ(イングランド)



ウェーバリー カレッジ(オーストラリア)



ハートブリー カレッジ(イングランド)



ハートブリー カレッジ(イングランド)
コーチ、スタッフ



ラグビーと異文化、世界交流の舞台。

World-class Extravaganza for High School Rugby Players

ロシアラグビー協会
ハイパフォーマンスマネージャー
ドミトリー アフィノゲノフ 様

High Performance Manager
Rugby Union of Russia
Dmitry Afinogenov

過去6年間にわたってサニックスワールドラグビーユース交流大会に参加させていただいたロシアのチームを代表して、サニックススポーツ振興財団に称賛を送ります。この大会は年を追うごとに進化していますが、貴財団の大会に向けた準備や運営は本当に素晴らしいものと感じます。

サニックスワールドラグビーユース交流大会は、世界のジュニアを対象とした国際大会の中でも非常にレベルの高いもののひとつだと確信しています。チャンピオンズリーグに匹敵する大会といっても過言ではありません。強豪チームぞろいの大会ゆえに、各チームにとっては強い相手に自分たちがどこまで通用するのかを試す絶好の機会となり、選手たちにとっても非常に良い経験となります。

この大会は傑出した組織によって運営されています。大会事務局およびそれを補佐するスタッフは、期間中選手やチームに起こる様々な問題に的確に対応されます。また、各国ラグビー協会の上級役員や代表の方の存在が、大会に華を添え、またその価値を高めています。

我々は故宗政伸一氏に感謝の言葉を送ります。彼がおよそ20年前にこの大会の開催を決めたことによって、世界中の若いラグビー選手が日本の選手とともにフィールドに立つ機会を得、またともに生活する貴重な機会を得ました。この大会は参加者にとって異文化をさらに理解するきっかけの場となっています。

毎年ロシアの選手は男女問わずこの大会に招待されるのを楽しみにしています。彼らはグローバルアリーナで試合をしたり、日常生活を送ったりすることを心待ちにしています。

過去の大会に参加した選手のうち4名がロシアナショナルチームのメンバーとなりました。このうち2名は本年開催のラグビーワールドカップ2019に参加するため調整を行っています。

大会のさらなる発展と成功を心から祈っています。

On behalf of Russian rugby Teams which have participated in fantastic event of SANIX WORLD RUGBY YOUTH TOURNAMENT for the last 6 years I would like to commend SANIX SPORTS FOUNDATION for the top level preparation and organization of this competition which is getting better and better every year.

Attitude to your tournament is very positive, we consider that it is one of the most challenging international tournaments among juniors in the world. You can say with confidence that your tournament bears similarities with the Champions League. Very strong teams take part in it. Teams participants are highly skilled, which gives any participant a considerable experience and the opportunity to test their strength with powerful opponents.

The tournament has an outstanding organization, it is remarkable to see the tremulous attention of organizers and assistants to the problems of the teams during the tournament, the presence of high-ranking officials and representatives of rugby federations that gives a special status and colouring to this tournament.

We wish to address our special words of gratitude to the late Mr.Shinichi Munemasa who decided to organize these tournaments over 20 years ago. Such a formidable undertaking allows young rugby players from all over the world to meet Japanese peers not only in the playing field but also in real life conditions, which provides participants with an opportunity to learn more about culture of foreign countries and continents.

Every year our boys and girls look forward to the invitation for the tournament to gain life and athletic experience at Global Arena.

Four rugby players who participated in the tournament are already became part of the Russian National Rugby Team. Two of them are getting ready to participate in Rugby World Cup 2019.

We wish further prosperity and success to the tournament.



世界のラグビー、世界の友と出会った大会。

パナソニック ワイルドナイツ / 日本代表メンバー
布巻 峻介 様

高校生当時、一番楽しみな大会でした。試合レベルも高く、海外チームとの対戦も初めてで、ワクワクしたのを覚えています。それ以上に、大会全体の雰囲気。寝食をともにし、ずっと一緒ですから。芝生に寝転がって話したり、写真を撮ったり。国内、海外選手の友達もたくさんできました。あと、演芸大会…いや、ウェルカムパーティーですか(笑) 楽しかったですね。パーティー後から、国内外問わず、一層仲良くなったと思います。

2009年に準優勝しましたが、当時は、どんなチームにも負ける気がしなかった。世界一を目指すことをチーム全体で意識していたと思います。決勝で、フランスに逆転負け。悔しかったですね。この大会で、どのプレーが通用し、どのプレーが通用しないかがわかりましたし、その後のラグビーに大いに役立ちました。この経験がなかったら、海外留学もしなかっただろうし、今日の僕もなかったと思います。大袈裟じゃなく、それほど魅力的な大会。もう一度出たいぐらいですよ(笑)。

チームや代表の合宿は、つらいことをみんなで耐えてがんばるみたいなのが多いんですが、この大会は、試合と日常がはっきり区別できていて、試合の感想を対戦チームの選手と話したり。そこで気づくこともあって、仲間意識も芽生えましたね。最近では、海外での対戦チームに、この大会に出場した選手がいて、「おう、出てたよな」と、盛り上がることもあります。

この大会の出場選手って、今すごいですからね。ティモシー ラファエレ、ジャック ノウェル、コリン スレイド、ティム バイトマン、J P ピーターセン、オーウェン フランクス、マット トッド…オールブラックス何人いるんですか、って感じです。彼らと同じ大会に出場したというのは、誇り、勲章です。

本当に長く続いてほしい大会です。僕たち世代のこどもたちが出場し、親子で出場した大会になればいいですね。海外選手たちと、親として再会できれば楽しいでしょうね。

昨年から実施しているエキシビジョンマッチ、ユースの世界選抜ですね。本当に良いことです。この大会でしかやれないことですよね。コーチ同士の意見交換、交流も大事だし、いろいろな角度から教えてもらえる機会は、高校生ではなかなかありません。新たな才能が開花する選手も生まれてくると思います。

いよいよ、なくてはならない大会になってきましたね。地元にも、この大会があることを自慢していいですか?(笑)



東福岡高校時代、2008年から3年連続で、当大会出場。大会出場時の布巻選手。